

第1回宗像市地域公共交通会議会議録

日 時	平成24年9月5日(水) 14時00分～15時45分
場 所	市役所北館103会議室
出席者	<p>【委員】永尾英信、牛嶋賢一(松尾代理)、大枝良直、中條光秋、森 正彦、岡田祐一、花田俊六、権田要助、前田 誠、大嶋長治、早川正史、貫 一字 原田勝子、平田恵美、峯 久子</p> <p>【事務局】大隈課長、高山係長 尾園 松山</p> <p>【オブザーバー】福岡運輸支局 白石 西鉄バス 大津、佐伯、荒川</p>
報 告	<p>1) 平成25年度地域間幹線系統確保維持計画について</p> <p>2) 現在のふれあいバス・コミュニティバス・循環バスの利用状況等について</p> <p>3) ふれあいバスアンケート調査結果について</p> <p>4) 赤間地区コミュニティバスの試験運行について</p>
議 題	1) ふれあいバス路線・時刻等の見直しについて
その他	今後のスケジュール等について

1 委嘱状の交付

2 委員・事務局紹介

3 会長、副会長の選任

前回に引き続き、会長に永尾委員、副会長に大枝委員を選出
(永尾会長)

せんえつながら、会長に務めさせていただくことになった。皆様のご協力をよろしくお願いしたい。このふれあいバス・コミュニティバスについては、西鉄バスを基幹として、それを補完するものとして市街地をふれあいバス、周辺部をコミュニティバスで昨年10月から運行している。また、4月から循環バスを1年間試験運行している。今回はアンケート調査等を受けて、来年4月の見直しに向けた協議をお願いしたい。

併せて、現在市の公共交通事業は6千5百万ほど支出している。今後ますます高齢化・過疎化が進展する中で、この事業を継続して行くためには、受益と負担(収入と支出)の整理と方向性を出す必要がある。今回は路線の見直しが主な議題となるが、利用料金についても議論いただき、この事業が将来に向かって持続可能な事業となるような審議もお願いしたい。

(大枝副会長)

自分は小学校から30年間宗像に住んでいて、今は糸島に住んでいるが、両親は宗像に住んでいるため、月に2～3回は宗像に帰ってきている。宗像は非常に愛着のある地域でもあり、今回の審議会もしっかり務めさせていただきたいと思っている。よろしくお願ひしたい。

4 地域公共交通会議の役割について

事務局から地域公共交通会議の役割等について説明。

5 報告事項

(1) 平成25年度地域間幹線系統確保維持計画について

西鉄バスから計画の説明

(永尾会長)

この路線(津屋崎・鐘崎線)のほかに、西川線(直方～鞍手～宗像)についても補助路線として認定されている。複数市町村で生活交通に不可欠な路線について、国・県から補助が出ている。何か質問等があればどうぞ。

(早川委員)

今まで、池野・岬地区のコミュニティバスを考えるうえで、西鉄バスとの競合問題が常に出てきた。池野・岬地区は域内のみを回るバスで主要施設に行けない現状にある。今回の話は、補助金が国・県から出るので、コミュニティバスの運行は西鉄バスとの競合を考えなく良いということか？

(西鉄バス)

共存・共栄の部分であるが、幹線については、本社で責任をもって運行させていただきたい。そのうえで、道路幅員の狭いところやバスでは入れない枝線については、コミュニティバスでお願いしたいと考えている。市民の要望については、収支状況や運行の状況などを見ながら柔軟に協議させていただく。

(事務局)

西鉄バスが言われたとおり、市としても基幹は西鉄バス、それを補完するものとしてふれあいバス・コミュニティバスを運行するという基本的な考え方は変わっていない。西鉄バス路線が廃止になると、1台1千万近くの財政負担が発生する。運行時刻についても、1時間から2時間に1本しか走らせることができなくなるため、利用者にとってかなり不便となる。西鉄バスが赤字であっても残してもらっている路線については極力競合を避けたい。ただし、池野・岬地区のコミュニティバスについては、他の地区に比べて極端に利用者が少ないため、来年度、サンリブまでの延伸を西鉄バスと協議を行い、概ね了承をいただいている。しかし、これはコミュニティバス全体に関することだが、延伸しても利用者が伸びない場合は、廃止も検討しなければなら

ないと思っている。

(永尾会長)

基本的には民間事業者の経営を圧迫しないのが原則である。しかしどうしても競合する部分については、協議しながら妥協点を見出して行くことがこの会議の趣旨であり、大事なポイントである。

(平田委員)

今回、赤字を解消するため、補助を申請しているが、もし、池野・岬地区のバスがサンリブまで延伸されると、西鉄バスの時刻が変わってくるのではないかと？今でも路線（西鉄バス）によっては、1時間に1本しかない。これで見直しをされて減便されると利用者として非常に困る。池野・岬の延伸はよいが、西鉄バス路線や便数が維持されるようお願いしたい。

(権田委員)

岬から池野を回って大王寺で終点である。岬からそこに下ろされてもどうしようもない。そのため、利用者数が極端に少ない。できれば形態を変えたい。田島・神湊方式にして、サンリブまでの延伸をすれば、利用者は増加すると思う。西鉄バスのサンリブへの路線変更は喜ばれているが、交通弱者は乗換なしで安価なバスを望んでいる。その辺が協議になると思う。

(貫委員)

西鉄バスの話であるが、申請すれば必ず通るのか？

(西鉄バス)

この路線については、国の基準を満たした路線であり、関係機関とも事前に協議している。申請すれば認可していただけていると思っている。

(貫委員)

それにより廃止は防げると考えているのか？

(西鉄バス)

この路線については、現時点においては廃止する予定はない。現状収支で何とか頑張っていきたい。

(2) 現在のふれあいバス・コミュニティバス・循環バスの利用状況等について

(3) ふれあいバスアンケート調査結果について

事務局から説明

(永尾会長)

何かあればどうぞ。

(大枝副会長)

平成24年3月と6月の調査の違いは何か？

(事務局)

平成24年3月は改正後(第3系統のサンリブ乗入、コミュニティバスの時刻改正)すぐの調査であり、6月は周知が進んだ後(4ヶ月後)の調査である。

(大嶋委員)

乗降客の実績が出ているが、自由ヶ丘地区については、市役所、医師会病院、ユリックスに行ける循環バスがなくなって、今の小回りの路線になった。平成22年のときに比べると減少していると思うがどうか?また、アンケートの中身がこれは乗った人の満足度であって、以前利用して、現在利用していない人のアンケートではない。比較は難しいと思うが、なぜこういうアンケート結果になったのかを類推してほしい。

(事務局)

比較の話だが、バスの台数、路線距離、バス停数等が違うので、単純な比較はできないが、全体の利用者数は若干減少している。これは大幅な改正に伴う困惑等で一時的に利用者が離れていると思う。現在は、徐々に利用者が戻りつつある。しかし、自由ヶ丘地区については、減少しているのではないかと考えている。自由ヶ丘地区は朝10時半にサンリブに到着し、12時半頃サンリブを出発するバスがあった。それにかなりの方が利用されていた。

(大嶋会長)

自由ヶ丘6丁目、7丁目の方は7時の次が12時しか便がない。

(事務局)

反対周りのバスに乗車してもらえればいいのだが、自由ヶ丘からサンリブへ直接行きたい方が多いため、そういうアンケート結果になっているのではないかと思う。

利用していない方へのアンケートの件だが、H19年度に調査を行った。しかし、回答者のほとんどが自家用車の利用が多く、本当に利用したい方のサンプルがとれなかった。ランダムに抽出してアンケートを送付してもほとんどの方が自家用車を持っているので、本当の利用したい方の把握は難しいのが現状である。

(原田委員)

アンケート結果をみると、第3系統の満足度が低い。やはり意見としては市役所、医師会病院への接続がなくなったとの声をよく聞く。

(事務局)

第3系統は、アンケート結果からも市役所、医師会病院への接続を望む声がある。しかし、市役所は直接行きたいという意見が多い。実際に電話等で市にも連絡があるが、よく聞くと年に1回程度、市役所に行くとの話になる。本当の不満の理由として市役所はポイントが下がるのではないかと考えている。前回3月のアンケート時は確定申告の時期だったため、市役所との意見が多いが、6月の調査ではかなり減少している。ただ、来年の改正はその辺も考慮しながら改正したいと考えている。

(峯委員)

直接行けるのは贅沢で、乗換は仕方ないと思うが、接続がうまくいっていない。1

日に1回くらいはうまく接続しているが、それ以外はかなり待ったりしないといけ
ない。西鉄バスにも吉武のコミュニティバスにもよく利用するが、接続をうまくやっ
ていただければありがたい。

(事務局)

接続がうまくいっていないというのも認識している。すべてのバスを合わせるの
は困難であるが、今回の見直しについては、まずふれあいバスの路線と時刻を確定さ
せて、コミュニティバスの路線、時刻を設定してもらいたいと考えている。

(4) 赤間地区コミュニティバスの試験運行について

事務局から説明

(牛嶋委員(松尾代理))

赤間地区の試験運行について、運賃、車両、運営費等についてお聞きしたい。

(事務局)

運賃は無料で車両の購入、燃料代、保険等は市が負担する。運営費(ボランティア
運転手の費用等)については、赤間地区コミュニティ運営協議会で捻出してもらう。

(牛嶋委員(松尾代理))

運営費はどこから出ているのか?

(事務局)

市のまちづくり交付金や指定管理料、地区の会費等となる。

(牛嶋委員(松尾代理))

乗合事業の認可があるため、バス停で停車できるが、道路運送法の適用を受けてい
ない事業の車両については、当然どこでも停車できない。(駐停車禁止)その辺いろ
いろあるため、また後日市から説明を受けて協議したい。

(事務局)

了解した。

(前田委員)

先ほど事務局から説明があったとおりであるが、今回の試験運行は、公共交通に恵
まれない交通空白地域の解消とコミセンの利活用を目的に現在4系統の路線設定を
行い、協議をしている。1系統30分以内でサンリブにいけるようにしたいと考えて
いる。運行委員もアンケートの結果から利用者の多い地区から委員を選出してい
る。今月の区長会でルートの説明をし、地元の意見を集約したいと考えている。それ
に併せてボランティア運転手の募集を今から準備を始めている段階である。赤間地
区は広いので、1年でまとまるかどうか分からない。我々としてはじっくり考えて、
よりよい状態にして運行事業者に引き継ぎたいと考えている。

(1) ふれあいバス路線・時刻等の見直しについて（協議事項）

事務局から説明

(永尾会長)

事務局から1系統については、満足度が高いため、基本的には変更しないが、利用の少ないバス停は廃止したい、第2・3系統については、抜本的な見直しを行い、第2・3系統を統一し、左・右回りを設定する。アンケート結果や利用者の声を聞いた案となっている。今日すぐ結果を出すのは難しいので、各委員が持ち帰ってもらい、いろんな意見を取りまとめてもらいたい。意見等があればどうぞ。

(花田委員)

2系統・3系統で1台か？

(事務局)

左回りで1台、右回りで1台となる。

(大嶋委員)

1周2時間とのことであるが、何便運行することになるのか？

(事務局)

片側5便、左・右で10便ということになる。

(岡田委員)

かのこの里は南郷地区の拠点である。1年6ヶ月の試験運行の結果、南郷地区のコミュニティバスはかのこの里を中心とした路線となっている。ふれあいバスとの接続をうまくやってほしい。

(大嶋委員)

以前は片側で6便あった。今回の方が運行距離が伸びているのか？

(事務局)

運転手の休憩や運行時間を考慮した結果の時間となっており、便数を確保するためには、どこかの路線やバス停をカットする必要がある。

(大嶋委員)

1周何分くらいにすれば、6便となるのか？

(事務局)

1周1時間30分で6便となるので、約20分から30分時間を短縮する必要がある。

(森委員)

すべてのバスをサンリブ、ゆめタウンに乗入れるとのことであったが、これはコミュニティバスもそうなるのか？吉武、南郷地区のバスをサンリブに乗入れることになるのか？

(事務局)

吉武地区はサンリブ、ゆめタウンに乗入れる。南郷地区については、地元がサンリ

ブまで望むのであれば、乗入れてもよいが、現状でもゆめタウンに乗入れている。

(岡田委員)

赤間地区のバスは南郷地区をカバーするのか？

(前田委員)

域内運行となるため、南郷地区をカバーしない。ただし、サンリブだけは、ふれあいバスとの接続があるため、サンリブには乗入を行う。

(早川委員)

議題では、ふれあいバスの路線と時刻の見直しになっており、便利な地区は便利になっているが、不便な地区を考える協議をまったく行っていない。具体的にはコミュニティバスの議論がなされていない。池野・岬の利用者数は、はじめから想定されたことでそれを今までも強調してきた。その辺の指針についてもこの場で協議してもらわないと困る。そうでないと、本日運行委員会を開催するが、サンリブまでの路線を協議していいのかわからない。その辺りをきちんと配慮した議論をお願いしたい。

(事務局)

今回はふれあいバスを市が決定するという事になっているので、議題を提出している。ふれあいバスの路線と時刻の決定後、地域に公表して地域の運行委員会でコミュニティバスの路線、時刻の協議に入っていただきたいと考えている。その辺がまとまった段階で、この場で協議したい。池野・岬については、事前にサンリブまでの乗入の方向で事務局長に連絡している。

(早川委員)

ふれあいバスの路線、時刻について、異論はない。ただ、池野・岬の利用者が少ないことの原因と今後の方針について、この場で確認してもらいたい。

(権田委員)

早川委員と同じであるが、池野・岬は過疎地で高齢化も進んでいる。コミュニティバスが便利になるはずが、現行の路線ではまったく利用価値がない。地域エゴを出すつもりはないが、中心部は商業施設や文化施設など恵まれている。過疎地のことをもう少し考慮してほしい。

(永尾会長)

早川、権田委員の意見ももつともである。今回は、ふれあいバスについてだが、池野・岬地区のコミュニティバスは大きな協議事項であるため、ふれあいバス路線、時刻が確定後、この場で協議させていただきたい。

(前田委員)

路線、時刻等ではないが、乗継でそのつど料金を支払わないといけないと思っている高齢者が多いため、もっと1日乗車券の周知をお願いしたい。

(平田委員)

電子マネーのコミュニティバスへの設置は検討しないのか？

(事務局)

システム導入コストや申請関係、車両の改造など、問題も多いため、現在は導入に至っていないが、今後、検討を進めたいと考えている。

(平田委員)

1日乗車券はあるが、電子マネーは今後、普及して行くと思うので、前向きに検討してほしい。

その他 今後のスケジュール等について

事務局説明

(大嶋委員)

9月中若しくは10月初旬には、ふれあいバスを確定したいとのことであったが、コミュニティとしてはどのような返事をすればよいのか？

(事務局)

今回示した案について、コミュニティ内で協議していただき、事前に事務局に報告をお願いしたい。

(岡田委員)

ふれあいバスが確定して、コミュニティバスが出てくるが、それでまたふれあいバスを見直すのか？

(事務局)

ふれあいバスは確定しているので、再度協議することはできない。コミュニティバスを合わせてもらうことになる。

(花田委員)

アンケート調査結果より、日の里地区は南郷方面に行きたいとの声が上がっているが、今回改正されれば、かなりの利用者が満足すると思う。今度の役員会（9月15日）に図りたいと考えている。

(大嶋委員)

今日の資料は、役員会で使用してよいのか？

(事務局)

使用してもらって構わない。

(原田委員)

第2・3系統がひとつになって廃止されるバス停が出てくると思うが、その状況については、聞いたら教えてくれるのか？特に田久と桜美台が外れているが。

(事務局)

田久と桜美台については、赤間の試験運行でカバーしていただくことになっている。

(原田委員)

自由ヶ丘6丁目、7丁目直接ユリックスに行けなくなるが良いのか？

(事務局)

自由ヶ丘6丁目、7丁目については、朝便がなく、またコミュニティセンターに行きたいとの意見があるため、以前の路線に今回戻すように考えている。

(永尾会長)

ほかに何かあるか？

(各委員)

特になし。

(永尾会長)

では、最後に大枝副会長からまとめをお願いしたい。

(大枝副会長)

公共交通は、やればやるほど赤字が膨らむことになる。宗像市の場合は、バス1台導入で7～8百万円の赤字が出ると思うので、現状の予算でぎりぎりだと思う。限られた金額でなるべく便利なバスを目指すことになると思う。今日の議論の中で感じたことは、コミュニティバスは生活に密着したバスであるということ、それから、乗換にかなりの抵抗があるとうことがわかった。交通計画の中には、公共交通機関の乗換を行って効率をよく運行するといった考えもあるが、利用者のほとんどが高齢者ということを考えれば、効率だけで乗換を行わせるのがよいのかどうか、その辺は皆様の方がよくご存知だと思う。多くの意見を取りまとめて議論を深めてもらいたい。

(永尾会長)

それでは、各委員また意見等あれば、事務局までお願いしたい。

次回開催日 平成24年9月24日 14:00～ 場所については後日連絡。